

「いざ、玉造城へ！」の巻

玉造城

玉造城は築城主や年代などの詳細は不明ですが、地元では弘安年間（1278-1287）に、野平伊賀守常弘が城主だったと、伝わっています。

もっとも、今に残る遺構は南北朝時代以降から戦国時代にかけて使われた姿と推測されます。

城の東側には街道が交差し、交通の要衝だったことが分かります。

北側の谷の開口部突端には蓮華寺があり、その他いくつかの寺院が置かれています。さらに谷を挟んだ対岸には妙見神社があり、それらが連携しながら、玉造城の 台地を取り囲んでる様子が見てとれます。

城主と伝わる「野平氏」とは？

地元の伝承で城主だったと伝わる「野平」氏ですが、千葉県でも成田市に多く見られる名字だといいます。

千葉氏の末裔と伝わっていますが、詳細は不明です。天正16年(1588年)に城主だった野平常義は、城を明け渡し僧になったと伝わります。玉造城の二郭には「速成日城大居士」の石碑が残っていて、城下にある蓮華寺の過去帳に「円教院殿速成日城大居士 野平伊賀守 天正18年4月廿二日卒」とあることから、当時城主だった常義の墓碑であることがわかります。野平氏は小田原北条方に属し、小田原合戦で北条氏が豊臣方に敗北すると、玉造城も開城、明け渡しとなりました。その時、野平常義の愛娘佐良姫がさらわれそうになりましたが、佐竹義重がそれを助けたという伝承が残ります。佐良姫は税のかからない免祖田をもらって庵を立て暮らしたといい、その地には「サラ免」という地名が残っています。

佐良姫と野平氏について、「野平富澤家譜略」によると…。

鎌倉時代に土岐頼兼の末亡人が新田荘富澤村（現群馬県太田市）にて子を出産。生まれた子は、村の名から富澤姓を名乗ります。そして、玉造城主の野平氏に仕え、数代後の光佐が佐良姫と結婚。野平氏は開城後に佐竹家臣となって常陸国に移りましたが、富澤氏は玉造に残り、後に野平姓に改め佐良姫の血筋を繋ぎました。



ふっくらたまこ

むつみさんと一緒に多古の歴史とお城の魅力をお伝えしますね！

香取神宮近くにも「玉造村」があるので、多古の玉造は「南玉造」とも呼ばれましたよ。



上の写真は主郭南西隅の八幡神社。

主郭と二郭の間の堀切を見下ろす位置にある。主郭を取り巻く土塁の中で、この隅だけ高くなっていて、櫓台があったと推測できる。

右の図は城周辺の地形図。街道を見下ろす台地の上に、城域が広がってたと思われる。現在は遺構は崩されて、周りには民家が立ち並んでいる。



玉造城が築かれた谷の開口部には蓮華寺が置かれました。蓮華寺は城主野平氏の菩提寺でもあり、城と連携して機能してたのではないのでしょうか。

大通りから赤い矢印に沿って主郭へ。赤い丸の場所に八幡神社が祀られています。

敷地内にはかつての城主の子孫が暮らしています。

ご厚意により、城の良好な遺構を見ることが出来ます。

マナーを守って見学してね！！



野平氏の家紋は二本線の「二つ引両」です。足利氏や里見氏と同じです。千葉氏末裔と伝わる野平氏の家紋が「二つ引両」！？なんで？

なんでだろう？
おもしろいね！



山城ガールむつみ